

# 巻頭言

## 第2回橋本道夫記念シンポジウム 概要と総括



(一社)海外環境協力センター 理事長 竹本和彦

OECCは、去る6月3日、総会・理事会を開催し、新たな執行体制を発足させました。私も理事長として再任頂き、鈴木会長とともに会員の皆様との連携の下、しっかりと職責を果たしてまいり所存ですので、引き続きよろしくごお願い申し上げます。

当日は昨年引き続き「橋本道夫記念シンポジウム」を開催し、多くの皆様にご参加頂き、将来の行動に向けた議論を深めることが出来ました。この「橋本道夫記念シンポジウム」は、初代理事長橋本道夫先生のこれまでのご功績を讃えるとともに、将来世代にわたり末永く同先生の志を引き継いでいくことを目的として、昨年より開催しています。

今回のシンポジウムでは、「気候変動適応策の国際展開：G20サミットを視野に」をテーマに、基調講演者として、環境省の森本次官(当時)及び国立環境研究所の亀山副センター長をお招きし、その後のパネル・ディスカッションでは、内外の専門家の皆様にご登壇いただき、本テーマに関する議論を深めて頂きました。今回のシンポジウムは、G20環境・エネルギー大臣会合及びG20サミットを直前に控えての開催でしたので、政府における取組や国際社会の動向に関する最新情報についてお伺いできる絶好の機会となりました。このシンポジウムの概要は本会報の特集として掲載するとともに、各登壇者の発表資料はOECCのウェブサイトに掲載しています<sup>1</sup>ので、ご参照頂ければ幸いです。

その後、G20環境・エネルギー大臣会合においては、海洋プラスチックごみ問題への世界的対応、気候変動対策に対する革新的取組(イノベーション)及び気候変動適応策等、地球規模の課題について議論され、共同声明及びその付属文書としての行動計画に集約されました。3つの行動計画は、環境と成長の好循環を加速する取組の強化に関する「軽井沢イノベーション・アクションプラン」に加え、「海洋プラスチックごみ対策実施枠組み」及び「適応と強靱なインフラに関するアクション・アジェンダ」から構成されています。またこれらの成果は、G20サミッ

トに報告され、首脳宣言及び「大阪ブルー・オーシャン・ビジョン」に昇華され、今後の道標(みちしるべ)として世界に力強く発信されました。

これら主要議題の一つとなった気候変動適応策については、昨年2月「気候変動適応法」が制定され、同年11月には「気候変動適応計画」が閣議決定されています。また気候変動適応策について国内の適応情報ネットワークの整備が開始されており、アジア太平洋地域における適応策を総合的に展開することを目的とした「アジア太平洋気候変動適応情報プラットフォーム」(AP-PLAT)については、先般のG20環境・エネルギー大臣会合の開催時において正式に発足されました。今回のシンポジウムにおける議論がこうした国際的取り組みの方向付け合意に少しでも後押しできたのではないかと考えています。

また今回は、「タイ温室効果ガス管理機構」(Thailand Greenhouse Gas Management Organization: TGO)からナタリカ副局長の参加も得ることができました。OECCは昨年TGOとの間での協力協定を再編したうえで更新したところです。私自身も先般先方主催のセミナーで講演を行いました。今回のTGOからの参加は私たちが平素より培ってきたTGOとの協力関係の証として、大変うれしく受け止めています。

OECCは、先般とりまとめた「気候変動分野における中期行動計画」(2019年6月)において気候変動適応策を戦略的活動分野の1つとして位置付け、政府や民間企業の海外展開にあたって引き続き貢献していく方針を明らかにしています。来年OECCは、創立30周年を迎えますが、海外環境開発分野における我が国の中核的拠点として、今後とも国際社会に貢献すべくしっかりと取り組む所存ですので、引き続き皆様方のご理解ご協力をお願い申し上げます。

<sup>1</sup> シンポジウム発表資料は、OECCウェブサイトにて公開しています。  
URL : <http://www.oecc.or.jp/about/symposium/20190603.html>